

慶應 SFC 学会 (A)研究成果発表 (学会発表) 成果報告書

慶應義塾大学政策・メディア研究科 後期博士課程 2 年 学籍番号 82349071

木元 麻鈴

- 発表研究タイトル：What Feelings Do the Birth and Existence of Grandchildren Bring to Grandparents in Today's Japan?: Exploring the Mind of “Grandchildren: they bring us bliss and they leave us relieved.”
- 発表形式：ポスター発表
- 学会名称：World Association for Infant Mental Health (<https://waimh.org/>)
- 国際会議名称：WAIMH 2024 Interim World Congress (<https://waimh.org/page/waimh2024>)
- 開催場所：フィンランド共和国、タンペレ
- 開催形式：現地対面
- 参加日程：2024 年 6 月 5 日～2024 年 6 月 7 日

■ 研究概要

本研究の目的は、第二次世界大戦後から現在に至る日本社会における世帯構造の変化に着目し、特に孫の誕生、幼い孫をめぐる高齢者の心情を探索することであった。文献調査（調査 1）、アンケート調査とインタビュー調査（調査 2）、調査 1 と 2 の比較検討（調査 3）を行った。

まず、調査 1 の結果、孫との関係に関する祖父母の心理を題材とした研究はわずかであることが明らかとなった。また、調査 2 からは、宝物、癒し、天使などという表現を用いつつ、孫の価値を非常に高く感じている祖父母が見られた一方で、孫や孫とのかかわり合いに対してアンビバレントな気持ちを抱く場合も認められた。例えば、孫に義務感を感じる、子どもに十分なことをしてあげられなかったことへの罪滅ぼしを孫を介して試みる、核家族の在り方に関する悩みを持つなどである。加えて、孫との間に心身ともに適度な距離があるということが、祖父母に安定した自己感や安堵感をもたらしていることも読み取れた。ただし、孫とのかかわり合いが少なすぎることは、祖父母がネガティブな気持ちを感じる原因となっていた。最後に、現代における高齢者の孫に対する複雑な気持ちが、日本における常套句の一つ、「来て嬉しい、帰って嬉しい」という言葉に表れていることを考察した。

■ 活動報告

本活動は、フィンランド共和国で開催された WAIMH 2024 Interim World Congress（以下、WAIMH2024）で、祖父母一孫関係に関する研究について、ポスター発表を行うことを目的とした。World Association for Infant Mental Health は、乳幼児の精神保健に関わる先生方、臨床家が集まる学会である。WAIMH2024 には、アジア諸国だけでなく、欧米諸国からも参加者が多く集まるため、祖父母一孫関係を異なる文化的背景の観点から捉えることができると期待され、本研究に対するディスカッションの場、ご指導をいただける場として最適であると考えられた。

ポスター発表の際にご指導いただいた内容や、ディスカッションの内容は非常に学びの深いものであった。祖父母と孫とのかかわり合いについては、イタリアやフランスでも、孫は「来て嬉しい、帰って嬉しい」に当てはまるような状況が見られていることを教えていただいた。また、欧米諸国における研究では、母子関係に主に焦点が当たっているものが多く、そこに祖父、祖母、孫という視点はあまり見られないというご指摘をいただいたことが印象的であった。

■ 今後に向けて

この度、ポスター発表、それに伴うディスカッションを通して得られた気づきや新たな視点を活かして、祖父母一孫関係や世代間交流に関する今後の研究に繋げていきたい。特に、少子高齢化が進む日本社会において、孫の存在の意味、祖父母と孫のかかわり合いのあり方を再度検討することは、今後さらに重要になると思われる。

また、この度のインタビュー調査は調査対象者 1 名につき 1 回と限られた時間の中で実施された。今後は、複数回のインタビュー調査を通して、孫の誕生から現在までを辿りながら、祖父母の心情の変遷を詳細に捉えていきたいと考えている。

■ 謝辞

この度は、WAIMH 2024 への参加にあたり、費用を援助してくださいましたことに、深く感謝申し上げます。

写真 1（国際会議のポスターの PPT）



写真 2（ポスター掲載場所の様子）

